

四季彩便り

2006・陽春

発行人
サニー光が丘
漢方四季彩堂
酒見 裕子
(092)927-2693

風 光る

四月清明の日、所用のついでに
実家からほど近い「琴弾の滝」に
行ってみました。

ここを訪れるのは数十年ぶり。

昔は桜の名所で、遠足の目的地でした。

澄んだ空気と滝の水音、時折うぐいすの鳴き声
があたりに響きます。

ふと足元に目をやると、フキノトウが顔を出し
ているではありませんか！

さっそく摘んで帰り、天ぷらに。

口の中に広がるフキの香りとはのかな苦味、春の
恵みに感謝です。

フキノトウは健胃薬として、フキの根茎(生薬名
ほうとせい)

蜂斗菜)は腫れものや打撲に用いられます。

「*タラノ芽はなかつたの?」とは母の言...

(まあ欲張りなこと)

*注 美味で知られるタラノキの若芽



琴弾の滝の一部

四季の話題



アリが活動を始める季節になりました。

現在世界に約二万二千八百種もいるアリは、一
億年前から、花が咲く被子植物の森の拡大と共に
多様化した可能性が高いとの研究結果がハーバ
ード大学のチームから発表されました。

この研究では、アリの祖先はなんと一億四千万
年以上前に出現したことも判ったとのこと。

恐竜すら滅びた時代にもアリは生きて今日ま
で種を増やし続けているとは驚きです。

アリは自分の体重の四百倍の重さの物を挙げ
ることができ、千七百倍もの重さの物を引っ張る
ことができるといわれています。

中国でアリを食用にする歴史は三千年以上も
あり、貴族階級しか入手できない高貴な栄養食品
だったようです。

中国の薬理研究によれば、**免疫調節・老化防
止・消炎鎮痛・機能増強・肝臓障害に対する保
護作用**などが認められています。

中国では関節リウマチ・肝炎・II型糖尿病・精
力回復などの治療において重要な補佐薬と位置
づけられています。

日本では栄養補助食品として
販売されています。



折々の薬草

タンポポ (生薬名 蒲公英)

春の野を彩るおなじみの野草ですね。

花が終わった後のあの白い綿帽子を見
ると、ついフツと吹いてみたくなりませ
んか？

日本の在来種はカンサイタンポポです
が、戦後、セイヨウタンポポが帰化植物と
して入り込み、都市部ではその強い繁殖力
にまかせて在来種を駆逐しつつあります。
その状況をタンポポ戦争と表現した時
期もあります。

薬用には根を付けた全草を乾燥させて
用います。

清熱解毒・抗菌・健胃の働きがあり、乳
腺炎の初期に使います。

食用には花や若葉を炒め物や天ぷらに、
根はキンピラや、炒ってコーヒーの代用に
します。

